

せい か ほう まさ  
星 火 方 正

ほうまさ  
～燎原の火は方正から～

<方正へ そして方正を後にして>

引間 政好

—「開拓団」の家族としての体験—

初めての肉声 驚き、怒り、未来への危惧  
戦後の中国で、流転8年の私の軌跡  
幼少期の錦州・奉天・引揚げと故郷再訪  
PTSDの日本兵と家族の交流について  
甦らせた！ 伊丹万作が遺した言葉

星野 郁夫  
新宅 久夫  
大野 正夫  
黒井 秋夫  
大類 善啓



中川村開拓団犠牲者の招魂碑（埼玉県秩父市の武州日野駅近くにある）

本号掲載の引間政好さんが体験され、逃避行の末に犠牲になられた人たちの霊を慰める招魂碑が上に見える。記された招魂碑という字は時間が経ち汚れ、また風食によるのか見えにくい。また前面にあるのが犠牲者の名前が記載された碑である。引間さんの遺族、また本誌に手記を掲載した高橋章さんの遺族の名前が隣に並んで記されている。



目 次

<方正へ そして方正を後にして> —「開拓団」の家族としての体験—	引間 政好	1
初めての肉声 驚き、怒り、未来への危惧	星野 郁夫	18
高橋章さんとの出会い	大類 善啓	21
<満蒙開拓団 忘れてはならぬ記憶> 高橋章さんを紹介した朝日新聞記事		23
元中川村開拓団の慰霊碑は何故二つあるのか	高橋 章	24
.....		
残留孤児「最後の養母」死去	読売新聞	28
.....		
戦後の中国で、流転 8 年の私の軌跡	新宅 久夫	29
「満蒙開拓」と私	加藤 まり子	33
幼少期の錦州・奉天・引揚げと故郷再訪	大野 正夫	35
国内各地の「満蒙開拓慰霊碑」の保存を	寺沢 秀文	41

「満蒙開拓」慰霊碑：都内に点在、地図作成 —元高校教員、異郷での悲劇伝え—	毎日新聞	48
「満州」移民関係の二冊の本	先崎 千尋	49
.....		
PTSD の日本兵と家族の交流について	黒井 秋夫	54
.....		
戦後 75 周年『今に想う』出版に際して	大島 満吉	58
井出孫六先生の御逝去を悼む	寺沢 秀文	62
金丸千尋さんを偲ぶ—日中友好文化交流に一生を捧げた人—	新宅 久夫	64
金丸千尋—中国・東北との友好に駆けた男 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」ハルビン市方正県物語』2003 年刊より転載	大類 善啓	65
中国人の寛大さと慈愛心 『星火方正』5号 07年 12月刊より転載	金丸 千尋	69
.....		
「一篇の詩が内包する歴史」	柳生 じゅん子	71
黄砂現象	〃	74

忘れ去られた、あの日から 千秋 昌弘 75

ゆりっく&るりっく 渡部 通恵 76

未完ドキュメンタリー映画『10 間だけの祖国』のこと 吉川 雄作 78

愛新覚羅浩夫人の書簡を紹介 末広 一郎 79

—軟禁中のお世話をした山下（甲斐）香都さん—

甦らせたい！ 伊丹万作が遺した言葉 大類 善啓 86

.....

不安が生む分断 繰り返すな—満州のペスト禍 85 歳が警鐘— 東京新聞 93

戦後 75 年 群馬と満蒙開拓 (7 回シリーズ) 朝日新聞 (群馬県版) 94

記憶のなかの「満州」(上) 見学旅行で知った“母国”との違い しんぶん赤旗 101

記憶のなかの「満州」(下) 地べたをほうように逃げて //

日中のはざま 残留孤児 3 代の物語 朝日新聞 103

.....

——「方正友好交流の会」へのお誘い—— 方正友好交流の会 104

報告／編集後記 105

# 「開拓団員」、引間政好さんの体験を聞く <方正へ そして方正を後にして・・・>

聞き手：大類善啓（方正友好交流の会 理事長、本誌編集人）

\*本稿は2020年7月26日（日）、方正友好交流の会・第16回総会後に行われた<引間さんの体験を聞く>会での記録です。当日司会をした森一彦（本会・事務局長）がテープを起こした記録を基に大類が校正し、また引間さん及び引間さんを方正の会に紹介された新宅久夫さん、引間さんの小学生時代の同級生であり、同じ「開拓民」の一員の高橋章さんらの修正を受けました。文中の注は、各位の意見を取り入れましたが、とりわけ名前を記しませんでした。改めて各位に感謝します。しかしなお、誤りがあるかもしれません。ご指摘をいただければと思います。

## ○引間政好（ひきま・まさよし）さんのプロフィール：

1934（昭和9）年、四男二女の末っ子として、埼玉県秩父市中宮地に生まれる。1940（昭和15）年、その中宮地から一家は現在の黒竜江省（旧三江省）樺南県閻家中川村に「開拓民」として渡満する。

敗戦時、11歳の引間政好少年は、土地を奪われた近隣の中国人などから襲撃を受け、家族と離ればなれになりながら方正を通過して、徒歩で430キロを踏破して現在の黒竜江省尚志県（当時は浜江省珠河县）にたどり着く。

1946（昭和21）年8月22日、尚志県から最終の列車に便乗し、ハルビンへ移動する。

1948（昭和23）年6月、八路軍（後の人民解放軍）の手配でハルビンから牡丹江へ移動。

1949（昭和24）年8月28日、牡丹江から瀋陽の招待所へ入居後、瀋陽日本人小学校に入学し寄宿舎に入居、寄宿舎で新宅久夫氏と出会う。日本に帰国するまで、長兄が無事、秩父に帰った事を知らずに戦災孤児として生活した。

1953（昭和28）年、引揚船で舞鶴港に帰国する。



写真右・大いに語る引間さん、左・大類